

シテイライフ創刊30年記念企画

シテイライフは今年で30年目を迎えます

30 anniversary Life Archives

北摂の歴史記録

現在、そして未来にもつながる過去の情報を取材、編集し、記録する特集です。北摂の歴史から、私たちの住むまちの魅力を学び知る機会になればと思います。第18回は、「高校野球のルーツは北摂にあった」について関西大学の学生がレポートします。

シテイライフ アーカイブズ 検索

第18回

# 高校野球のルーツは北摂にあった

TV視聴率の20%越えは当たり前といわれる甲子園の高校野球のルーツは豊中にあった。1世紀ほど前に完成した豊中運動場。建設からわずか9年で姿を消したが、そこには球児たち以外にも主人公がいた。それは市民だ。

## 歴史案内人

取材協力 辻井花歩さん  
 関西大学文学部大学院 辻井花歩さんが豊中運動場を長く取材している毎日新聞の松本泉記者や豊中運動場周辺の住民らに話を聴きました。

## 野球と市民の壁は高さ1m

豊中運動場は、1913年に現在の阪急電鉄の沿線振興策の一つとして建設された。今の豊中駅から西に約1.5kmのあたりだ。東西面積は2万1000平方メートル。3万8500平方メートル。3万8500平方メートル。3万8500平方メートル。

大会の元である1915年と翌16

## 市民がルールをつくった

高校野球の長い歴史の中で敗者復活戦が行われた試合が3試合あった。その初めての試合は豊中運動場であった。しかし、敗者復活戦から大会優勝校が出てしまったことで、観客か

## 持ち込み、オツケ、審判も

豊中運動場は入場無料で、様々なものが自由に売られた。当時としては超高級食品であるサンドイッチやハンソーセージに加え、三ツ矢サイダーなども売られ、連日売り切れ御免だった。現在のミズノである

1916年の第2回大会では入場者が5日間で数万人にのぼった。観覧席は5千人ほどだったから、観客はグラウンドにあふれ出した。電

## ラグビーやサッカーまで

野球だけでなく、高校ラグビー、高校サッカーの発祥の地でもある。あるときはクロスカントリーのスタート地点にもなった。「コース取りのために田んぼを踏み荒らすな、野井戸



運動場開設当時はなかった豊中駅

造開始。1914年には堂島工場を構え、野球用具を本格的に生産するようになった。この球場では審判すら「持ち込み」だった。現在では4人審判制や6人審判制が普通であるが、当時は単独審判や2〜3人の審判で行われており、旧制高校などの野球部員や取材に来た記者が、飛び入りで審判を頼まれることもあったという。

## 人気が仇で引越し

豊中運動場から「全国中等学校優勝野球大会」が消え、その舞台が兵庫県の鳴尾運動場に移ったのは1917年である。その原因は皮肉にも「中等学校野球の人気」だった。1916年の第2回大会では入場者が5日間で数万人にのぼった。観覧席は5千人ほどだったから、観客はグラウンドにあふれ出した。電



閑静な住宅街にある小さなメモリアルパーク

主催する大阪朝日新聞社に新運動場の建設を申し出たのが阪神電鉄だった。兵庫県鳴尾村にあった鳴尾競馬場に大規模なグラウンドを作る計画だった。競馬のトラックの内側に、陸上競技用のトラックと、その内側に野球場を二つ設け「野球2試合が同時にできる」というのが売り文句だった。

## 市民がつくる高校野球史

結局、豊中運動場の跡地は住宅地になり、今その歴史を伝えるものは跡地にできた小さな



住民が継ぎ足し繋いでいく歴史あるレンガ壁



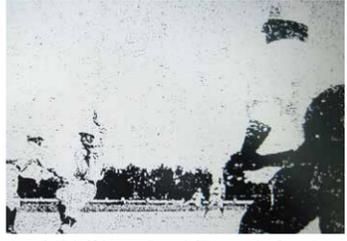
今でも運動場と駅を繋ぐ一本道は健在



全国中等学校優勝野球大会第1回大会。大阪朝日新聞社の村山龍平社長の始球式(1915年8月)



豊中運動場の正面入り口(撮影年不明)



全国中等学校優勝野球大会第1回大会。熱戦の1コマ「毎日新聞提供」



第1回大会で使用されたボール(甲子園歴史館所蔵)

### 取材を終えて

彼氏の応援で甲子園へ行ったときも、リオ・オリンピックを見たときも、感動とは別の気持ちがあった。「あちら」(選手)と「こちら」(観客)は別世界、ということだ。しかし今回記事を書く過程で、今程ルールも設備も整備されていない頃、近代スポーツを形作った市民の存在を知った。今から100年も前ですら、「あちらとこちら」を隔てる壁は、わずか1mの高さしかなかったのだ。豊中運動場と毎日新聞の松本泉さん、赤煉瓦を守る住人の方たちは、そのことを私に気づかせて下さった。私たちは今もスポーツの観客であると同時に、主人公であるに違いない。

関西大学文学部大学院  
辻井花歩